

学校評価 第1回 保護者アンケート（年間1回のみ実施） 考察

令和3年12月22日

安謝小学校

合計18項目 昨年度との比較：UP→8 Down→1 維持→9

（１）肯定回答の多い項目（平均3.5以上） （ ）内は肯定回答の割合

- ・問5「学校は、子どものよさを見つけ、ほめてくれる」 3.6（97%）
- ・問10「お子さんは、ほぼ毎日家庭学習をしている」 3.5（91%）
- ・問14「保護者は、学校が出す文書や学校や、学校からのメールに目を通して
3.6（97%）
- ・問17「家庭で規則を守ることやマナーについてよく話している」 3.5（97%）

「問5」を保護者が実感できるということは、各学級担任が子どもをほめたり認めたりする場を多く設けたり、各担当が児童会活動・委員会活動・係活動・学校（学年）行事を充実させ、各児童の長所を伸ばすような「自己肯定感・自己有用感」を高める取り組みが、児童を通して保護者に伝わっているということである。

（２）気になる項目（平均3.3以下）の変容

- ・問4「学校は、子どものことについて、気軽に相談できる。」 3.3（91%）
- ・問12「お子さんは、あいさつがしっかりできている」 3.1（81%）
- ・問13「お子さんは、学校が出す文書・連絡などを、きちんと親に届けてくれる」
3.3（87%）
- ・問16「保護者は、子どもに将来の夢や仕事について話をしている」 3.3（87%）
- ・問18「地域の大人が、子どもたちを励ましたり、注意したりしてくれる」
2.9（73%）

（３）今後の改善点

全体的に昨年度より向上した項目が多くあったのは、全職員が意識を高く持ち、努力を継続した成果と思われる。

気になる項目の問4は、昨年度からの課題であり、全体的には肯定回答が91%となっているが、コロナ禍もあり相談しにくいという意見を出す保護者の方が多い。

児童アンケート結果考察でも今後の改善について記載したが、常日頃より子どもたちのことで気になることはこちらから保護者へ連絡したり、相談体制について寄り添い支援員や教育相談支援員、SCの存在を周知することが大切である。

問12も昨年度からの安謝小の課題である。児童会が挨拶競争の結果を放送したり、教師側から積極的にあいさつするように心がけるなど改善の兆しが見られるが、継続した工夫が必要である。

問13は、メールやHPも併用して保護者に周知できるようにすること、早めにお知らせ文を出すことを励行していく。

問18は、コロナ禍で地域行事も開催が少なく、地域と保護者、地域と学校の連携が希薄になりがちなので、学校が地域と保護者の橋渡し役もしながら協働していくことが大事である（児童アンケート考察、教職員アンケート考察にも関連記載あり）。